

氏名： \_\_\_\_\_

人が似たような計算をたくさん練習すると、そこで見つけた（身に付けた）経験則が、新しい（でも似たような）問題にも使える「一般的で抽象的な知識」に変わっていきます。こういう「似たようなもの一般にあてはまる抽象的な知識」の構造を「スキーマ」と呼びます。

- (1) さて、スキーマがそういうものだとして、今やった「計算練習課題」の結果から考えて、スキーマの功罪(利点と困った点)は、それぞれどんなことでしょうか？

- (2) 「練習によって経験則がスキーマ化する」のは、個人の認知過程の特徴です。計算練習などを友達と時々話し合ったりしながら一緒に、つまり協調的にやることには、何かメリットがあるのでしょうか？あるとしたら、どんなことでしょうか？

氏名： \_\_\_\_\_

これまでのところをまとめて「スキーマの功罪と協調活動の意義」が一目でわかるポスターを、15分で作ります。ライティング・シートを使います。このワークノートは、何をどうまとめるか、下書きに使って下さい。